

空間を空間たらしめるもの。そもそも空間というものは何なのか。私は、それは空気の揺らぎやその場所にある物と物によって生じる関係性によってつくられているのではないかと考える。私は余韻や空気のゆらぎ、空間に着目する。それはどこか惹かれる、わくわくするような空間である。空間は写真に写らない、実体がないものだが、たしかに私は存在しているものだと考えている。

いままで私が撮影してきた写真は共通して、被写体だけでなく被写体を通して撮影現場の空気を切り取っていた。これは無自覚であったが、被写体を主体とすることではなく、被写体はその場所/スペースにあること、その被写体と場所によって生まれた空間に意味や感情を見出していたのではないかと気がついた。私はその空間を求め、写真に残していたのだ。しかし、そこにあっても目に見えないため、私はこれを便宜上「空間」と定義づけてはいるが特定の言葉で表現し難いものだと思う。だから私はこの作品に「 」“というタイトルを付けた。見た人それぞれが解釈できるように。あなたがこの作品を見て頭に浮かんだ言葉がこの作品のタイトルであり、あなたの空間である。

ふと目を向けた先に、見慣れた景色でも意識してみると感じられる空間がある。

例えば休日の昼下がり、カーテンの隙間から陽の光が差し込んでいて暖かそう場所に対して“そこに行きたい、寝転がりたい”と感じるような空間である。そんな空間を、写真に残したいと考えている。そこに行きたいと思うような空間を写し、余韻を感じさせる空間を持つ意味を追求したい。私が切り取った空間をみて感じてほしい。

目に見えなくても確かにそこにある。その空間に私は心を惹かれている。





























